

執筆者紹介

堀江 洋文 ほりえ ひろふみ 本学経済学部教授

〈編集後記〉

ここ数年、ほぼ毎年のように堀江所員は本月報に論考を寄せている。本号は16世紀の宗教改革でのルター派とカルヴァン派の「抵抗」の論理の異同についてである。ルネサンスと並ぶ、中世からの人間の解放の道筋としての宗教改革にとって、現存の権力との対峙は避けられないものであった。国家と宗教、あるいは「聖」と「俗」との関係は現在に至る大きなテーマである。「プロテスタント」とは、現存の「国家と宗教」の関係の両者に対する「抗議」なのか、それともそうではないのかは理解に苦しむところである。天上の支配者と地上の支配者との関係、そして地上の支配者に対する「抵抗」の論理について宗教はどのような役割を持っているのだろうか。

同じく16世紀の日本では、天下布武を掲げた織田信長による比叡山延暦寺の焼き討ち、そしてその後本能寺の変があったことが思い起こされる。

(T.F.)

平成23年5月20日発行

神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1番1号 電話 (044)911-1089

専修大学社会科学研究所

(発行者) 町田俊彦

製作 佐藤印刷株式会社

東京都渋谷区神宮前2-10-2 電話 (03)3404-2561
